

# 阿闍羅

題字 賀山雄太

発行・編集

青森県南津軽郡大鰐町大字三

ッ目内字水沢出口117-1

社会福祉法人

阿闍羅会

電話 0172(48)2426

## 施設長あいさつ

ワークキャンプ大鰐・ワークショップ大鰐

「うあいきっ」

ワークキャンプ大鰐

施設長 佐藤直幸

まず始めに、当法人広報誌が、都合によりしばらくの間皆様のお手元へお届けできず大変心苦しく思っておりましたが、ようやく発行できる運びとなりました。

また昨年度は、当法人阿闍羅会にとって創立二〇周年という大きな節目を迎えることができました。これも偏に利用者・保護者の皆様をはじめとして、地域の皆様や各関係機関の方々の

様々なご指導と変わらぬご支援の賜と誌面を借りて心より感謝を申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、近年は少子高齢化や生活環境の多様化が進み、それに応じてニーズの拡大や複雑化など大きく変化しています。これらに、できる限りお応えできるような皆様とともに取り組んでいく所存です。また当法人では、誌面でもご紹介しているとおり、現在、主にハード面を強化しているところと近頃話題となつて

### ■実施事業

#### ○ワークキャンプ大鰐

- ・生活介護
- ・就労継続支援B型

#### ○ワークショップ大鰐

- ・就労移行支援
- ・就労継続支援B型

#### ○グループホーム

- 介護サービス包括型2棟
- 外部サービス利用型2棟

【平成30年9月1日現在】

いる共生社会の実現や、障がいの重度化、高齢化(保護者の皆様の高齢化も含めて)などのニーズに対応するため、グループホームを二か所開設いたしました。その他、利用者の工賃向上のため、当施設の中心的作業種目であるしいたけ栽培の拡充を図っています。

しかし、現在進行しているハード面の整備強化だけでなくソフト面での充実を図ることにより、利用者の皆様にとって仕事面のみならず生活面においても質の向上に繋げられるよう自身を含め職員一同取り組んでいるところです。支援の技術や知識を学び、利用者ひとりひとりの権利擁護に重点を置き、利用者中心の支援を目指していきたいと考えています。

## しいたけ 全国 銀賞

ワークキャンプ大鰐 目標工賃達成指導員

植田善久

平成三十年一月三十日に福島県郡山市で行われた北研の全国大会に行つて来ました。

前回はそれまで五年連続

継続中だった入賞を逃してしまい、今年も二年ぶりの入賞を目指して出品したのですが、しいたけの収穫量も少なく自信はさほどありませんでした。ところが結果は銀賞と奨励賞をいただくことが出来、とても満足いく結果となりました。

ところでこれからの福祉は、人と人の繋がりが特に重要になってきます。施設やグループホームを中心とした地域との繋がりがだけでなく、家族とともに生活する地域での繋がりの重要性が増してきています。支援を受けるだけでなく、自分の力を発揮し何らかの形で地域に貢献するという社会との相互関係が必要です。当法人は、地域の中核として利用者の皆様とともに、様々な方々と相互に支え合える存在と成るべく取り組んでいく所存ですので、これまで同様よろしくお願ひ申し上げます。

### 「日々思うこと」

施設長 白石安英

ワークショップ大鰐で仕事をしようになつて、早2年が過ぎてしまいました。それまでの卒業生を送り出す立場から、卒業生を受け入れる立場へとその立ち位置は少し変化しました

帰つてきて利用者に報告した時も利用者の皆さんはとても喜び、これからのしいたけの栽培に向け気持ちを新たにしていきました。今回入賞が出来たのは暑い日も寒い日も毎日毎日しいたけ作業を頑張つてくれた利用者皆さんの努力

が、朝、利用者の皆さんを出迎えたり、帰りに見送つたりすることは変わりません。

元気な笑顔の「おはようございます」と、一日頑張つたという表情で「また明日ね」と帰って行く様子を毎日見られるのは、一緒に活動する一人としてとても嬉しいものです。作業や行事でうまくできなかったり、思うようにできなかったり、ライラしたり、些細なことでも友達とけんかしてしまつたりしても、多くの利用者の皆さんは、次の日は気持ちを切り替えて元気に通所してきます。

人は誰でも、行くべき(行きたい)場所があり、やるべき(やりたい)仕事があり、会いたい人や待つてくれている人が必要です。このことは、生きていく上での必須条件ではないでしょうか。当然のことではありますが、とても重要なことだと思えます。最近あまり使われなくなりましたが、QOL(Quality of Life)生活の質

が認められた結果であると思えます。来年こそは今まで一度も取つたことのない金賞が受賞できるよう、これまでに以上に質の良いしいたけが出せるよう努力していきたいと思ひます。

質を高めることを充実させるためには、この当たり前のことが前提になっていると思ひます。自分の生活の基盤がしっかりしていなければ、次の段階にステップアップすることは難しいものです。

ところで、日々利用者の皆さんを支援している我々法人職員は、職種や立場は様々ですが、日常の作業や行事等に利用者の皆さんと一緒に取り組む中で、直接的支援や間接的支援により、結果としてQOLの充実につながられるよう努めています。また、「のん気、根気、元氣」は言い古された感がありますが、利用者の皆さんと付き合っていく上で重要な要素だと考えています。日々の活動は重要ですが、結果に直結しないことも多く、長期的な目標設定が必要なものもあります。「のん気、根気、元氣」は、精神的にも身体的にも余裕が必要だと示していると思ひます。職員に余裕がなければ、支援にも余裕がなくなり、仕事や生活の質の向上にはつなげられません。

利用者の皆さんと職員が共に成長し、これからも元気で明るい思いやりのある生活の場や職場であり続けるために、皆でいろいろなきましよう。

# 利用者工賃向上への取り組み

ワークシヨップ大鱈  
田中 大生

社会福祉法人阿闍羅会では、津軽地区障害者就労継続支援事業共同受注窓口「ふらわーずぶるーむ」として、津軽地区の就労継続支援施設と連携し、当法人を含めた各施設の生産品を、集配・販売・展示を行っています。平成二八年度からは、当窓口が青森県健康福祉部障害福祉課から委託を受け、農福（農業と福祉）連携による障害者の就労支援事業として「ノウ

フクマルシェー（就労継続支援施設の農産物販売イベント）を年一回（一回二日間）の開催をしました。平成三〇年度も開催する予定です。

また、平成三〇年度の新たな事業として、青森県の平成三〇年度基本計画重点事業内に設けられている青森県障害者就労施設工賃向上支援事業（販売促進情報提供体制構築事業）を青森県健康福祉部障害福祉課より当窓口が受託しました。県はこの事業を、平成三〇年度に三圏域（東青、

三八、中南）、平成三一年度には、三圏域（西北、上北、下北）の県内六圏域に展開する計画です。それぞれの圏域に設置した協議会では、就労継続支援B型事業所の物品や役務の受注及び販売促進に関する意見交換を行い、効率的な販売促進等につなげることが目的です。協議会の構成として想定しているのは、就労継続支援B型事業所、各圏域市町村、企業等で、予定検討事項は、①圏域市町村庁舎や企業ビル等の空きスペース、JR通路等を活用した物品販売の検討や交渉、②市町村開催イベントグッズ（記念品等）の受注交渉、

# 阿闍羅会しいたけ事業拡大について

ワークキャンパス大鱈  
中畑 幸

しいたけが大々的に拡大していませんか？そう思われたと思います。元々、しいたけの栽培等はワークキャンパスをメインに進められてきました。二九年度はなんと過去最高の収穫量、売上の更新をしました。それにより、念願であったハウスの増設が叶ったわけです。利用者皆さんの力があつたからこそ増設することが出来る

わけです。ワークキャンパスの裏の畑に増設二棟、既存ハウスの一棟を移設することが決まりました。六月より着工が始まりました。二棟増設をするという事は収穫量は今までよりも多くなります。キャンパスだけではなく、間に合いません。その為、ワークシヨップの皆さんにもしいたけ作業に携わって貰い、法人一丸となつてしいたけを盛り上げていくわけです。増設する二棟のハウスには空調設備も完備し一年を通して安定した収穫

量を目指しています。「ワークキャンパスのしいたけ」から「阿闍羅会のしいたけ」へ。今後も品質を落とさず肉厚で美味しいしいたけ作りを目指し、更には利用者皆さんの工賃アップを目指していきたいと思えます。

九月初旬完成を待ち遠しく思いながら、利用者の皆さんと一緒に今後も頑張っていきたいと思えます。



③市町村広報を活用した製品販売のPR要請、④参加事業所の拡大や有効な販路の検討などです。

津軽地区障害者就労継続支援事業共同受注窓口「ふらわーずぶるーむ」は、この協議会事務局として、平成三〇年度中に四回の協議会の実施とともに、販売促進等に係る各関係機関との連絡調整とマッチング業務を行い、津軽地区（中弘南黒地区）全体の就労継続支援施設利用者の工賃向上に些少ではありますが貢献できたらと考えています。

## 新職員紹介

本年から職業指導員として働くことになりました、石戸谷健です。利用者の笑顔を見ると、こちらも元気に毎日楽しく仕事が出来ています。弘前市出身でねぶた祭りが大好きです。その他の趣味はカメラで自分の子供の写真を撮ることです。



# グループホームの紹介

## グループホーム【さくら】

ワークキャンパス大鱈  
竹内友紀

利用者の高齢化や重度化への対応については当法人として課題のひとつとなっております。

そこで、利用者本人及び保護者からのニーズにもお応えした「グループホームさくら」を新設いたしました。こちらのホームはバリアフリー型で利用者さんも支援者も安全で安心のできる生活を確保することが出来ます。

昨年八月一日の開所から早一年を迎えようとして、利用されている方々もだいぶ生活に慣れ、各々自分の時間を有意義に過ごしているところがあります。

地域の皆様とともに安心して生活していけるよう全職員も積極的に取り組んで参りたいと考えております。今後とも、よろしくお願い致します。



の連携も可能な限り取りながら職員一同頑張りたいと思います。

## グループホーム【こすもす】

ワークシヨップ大鱈  
中嶋綾子

当法人四つめのグループホームとして平成二八年一月に外部委託型「グループホームこすもす」が設立されました。町の中心に近く窓からはあじや山が見え事業所にも近く利便性に優れているホームです。利用されている方の一人一人のプライバシーを守りつつ各々の自立に向けたサービスの提供、各居室には冷暖房完備といった住み心地の良い環境になっています。

【こすもす】の名前の由来は、法人が所有するホームがすべて花の名前であり、いくつかの候補の中から全職員で言葉の響き、野に咲くこすもすの優しく且つ凛とした様から名付けられました。まだ設立されて二年と若いホームですが地域との連携も可能な限り取りながら職員一同頑張りたいと思います。

桜まつりへご挨拶

ワークシヨップ大鱈  
鎌田健司

今年の四月二十八日（土）に金木町荻野公園にさくら祭りに行ってきました。その日は、利用者の日頃の頑張りに天が応えてくれたのでしよう。見事な晴天に恵まれました。

での満開のさくらをゆつくりと観賞し、小さな動物園にいたクマやウサギを見て喜んでいました。出店での買い物、早い人は五分もせず欲しいものが決まり、逆に決めない人は出店の周りをグルグルと何往復もしています。普段はあまりさくらまつり等に参加しない利用者さんも、この日は皆とても楽しんでいて、行事担当者として実施して良かったと思えました。

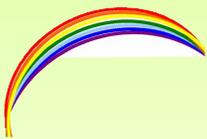


遠足

ワークキャンパス大鱈  
中平 恵美

ワークキャンパスのみんなで、五月一二日（土）黒石市虹の湖公園へ行って来ました。天候が良く気温も高く、遠足日和でした。この日は、黒石市虹の湖公園に西目屋村から水陸両用バスが来て、虹の湖ダムを運行するイベントがありました。始めての水陸両用のバスを間近で見学した利用者は興奮状態でした。

今回は残念ながら水陸両用バスに乗らず、間近で見学と虹の湖ダムを運行しているところを見て楽しんできました。水陸両用バスを見学後、虹の湖公園の売店で、アイスやジュース、お土産を買い、昼食は自宅から持参したお弁当を美味しく食べて楽しいひとときを過ごしました。



地域に根ざした障害福祉を目指し  
～阿闍羅会の取り組み～  
【地域に向けた研修会の実施】

ワークシヨップ大鱈  
田中大生

平成二八年三月三十一日に成立した改正社会福祉法が、平成二九年四月一日から施行され、社会福祉法人は改革を求められ、当法人もこれに合わせいくつもの改善に取り組んできたところです。それらの中のひとつとして、「地域における公益的な取り組み」の実施があります。制度としては、法人に余剰財産（運転資金や建替資金等を超える繰り越し）があることが実施義務の条件となっています。当広報誌に掲載されている決算報告を見て分かる通り社会福祉法人阿闍羅会の財政状況は決して潤沢ではありません。だからといって地域のために何も貢献しないのではなく、地域の福祉の一端を担う法人としての思いがあり、以前より様々な活動をしてきました。そして、この度の制度改正を好機と捉え、新たに見える形での地域貢献の取り組みのひとつとして、「地域に向けた障害者理解のための研修会」を開催しました。

平成二九年度は、研修講師に一般社団法人権利擁護あおい森ねつとの三上富士子代表をお招きし「成年後見制度」をテーマに開催し

ました。法的なことの講義かと思いきや実際の事例を元にしたドラマを見ていくかのような話し方の展開に興味津々で、参加者の皆さんもその内容に引き込まれ、終盤には成年後見制度を身近に感じられ自分が利用するとしたらといったことを想像し、多くの質問が飛び交っていました。

平成三〇年度は、一月二二日（木）鰐 come にて「様々な障がい者と向き合うときの視点」障害がある立場から」をテーマに青森県立盲学校の教員で自身が全盲の障害がある方をお呼びしてお話をいただく予定です。あらためて地域の皆様にご案内差しあげますので、ぜひご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

【十月・十一月の行事予定】

- （シヨップ）
- 十月 十三日 宿泊訓練
- 二十日 秋の三者面談
- 十一月 十日 レク
- 十七日 社会見学
- （キャンパス）
- 十月 十三日 秋の三者面談
- 十一月 十日 社会見学

貸借対照表

(自)平成29年4月1日 (至)平成30年3月31日

■資産の部		■負債の部	
流動資産	93,321,991	流動負債	5,312,755
現金預金	62,880,445	事業未払金	5,312,755
事業未収金	30,361,444	預り金	
立替金	2	職員預り金	
前払金	80,000	前受金	
仮払金	100	仮受金	
固定資産	186,993,876	固定負債	30,510,575
基本財産	137,882,730	設備資金借入金	20,000,000
土地	56,638,908	退職給付引当金	10,510,575
建物	81,243,822	負債の部合計	35,823,330
その他の固定資産	49,111,146	純資産の部	
土地	3,120,000	基本金	19,581,442
建物	23,393,989	国庫補助金等特別積立金	54,021,423
構築物	3,563,823	その他の積立金	1,700,000
機械及び装置	282,676	次期繰越活動増減差額	169,189,672
車輛運搬具	4,291,687	(うち当期活動増減差額)	4,207,434
器具及び備品	2,248,396		
退職給付引当資産	10,510,575	純資産の部合計	244,492,537
人件費積立資産	1,700,000	負債及び純資産の部合計	280,315,867
資産の部合計	280,315,867		

資金収支計算書

(自)平成29年4月1日 (至)平成30年3月31日

事業活動計算書

(自)平成29年4月1日 (至)平成30年3月31日

勘定科目		決算額	勘定科目		累計	
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	20,992,877	サービス活動増減の部	就労支援事業収益	20,992,877
		障害福祉サービス等事業収入	152,026,731		障害福祉サービス等事業収益	152,026,731
		自立支援給付費収入	133,451,340		自立支援給付費収益	133,451,340
		利用者負担金収入	15,958,298		利用者負担金収益	15,958,298
		補足給付費収入	2,617,093		補足給付費収益	2,617,093
		経常経費寄附金収入	0		その他の収益	48,398
	受取利息配当金収入	806	サービス活動収益計(1)	173,068,006		
	その他の収入	1,336,015	費用	人件費	95,831,751	
	利用者等外給食費収入	889,550		事業費	26,405,830	
	雑収入	446,465		事務費	23,352,348	
	事業活動収入計(1)	174,356,429		就労支援事業費用	17,639,874	
	人件費支出	95,129,971		就労支援事業販売原価	17,584,772	
事業費支出	26,405,830	就労支援事業販管費		55,102		
事務費支出	23,352,348	減価償却費	10,912,829			
就労支援事業支出	17,639,874	国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 4,207,740			
就労支援事業販売原価支出	17,584,772	サービス活動費用計(2)	169,934,892			
就労支援事業販管費支出	55,102	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	3,133,114			
支払利息支出	42,829	サービス活動外増減の部	受取利息配当金収益	806		
事業活動支出計(2)	162,570,852		その他のサービス活動外収益	1,287,617		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	11,785,577		サービス活動外収益計(4)	1,288,423		
施設整備等補助金収入	22,683,759		費用	支払利息	42,829	
設備資金借入金収入	20,000,000		サービス活動外費用計(5)	42,829		
施設整備等収入計(4)	42,683,759		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,245,594		
固定資産取得支出	44,199,652	経常増減差額(7)=(3)+(6)		4,378,708		
土地取得支出	0	特別増減の部	施設整備等補助金収益	22,683,759		
建物取得支出	38,751,000		拠点区分間繰入金収益	15,800,000		
車輛運搬具取得支出	2,800,000		拠点区分間固定資産移管収益	11,708,747		
器具及び備品取得支出	158,652		特別収益計(8)	50,192,506		
構築物取得支出	2,490,000		固定資産売却損・処分損	620,568		
施設整備等支出計(5)	44,199,652		国庫補助金等特別積立金積立額	22,000,000		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 1,515,893	拠点区分間繰入金費用	15,800,000			
その他の活動による収支	収入	拠点区分間繰入金収入	15,800,000	事業区分間固定資産移管費用	234,465	
		その他の活動収入計(7)	15,800,000	拠点区分間固定資産移管費用	11,708,747	
	支出	積立資産支出	701,780	特別費用計(9)	50,363,780	
		拠点区分間繰入金支出	15,800,000	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 171,274	
		その他の活動支出計(8)	16,501,780	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	4,207,434	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 701,780	繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	164,982,238	
予備費支出(10)	0	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	169,189,672			
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	9,567,904	基本金取崩額(14)	0			
前期末支払資金残高(12)	78,441,332	その他の積立金取崩額(15)	0			
当期末支払資金残高(11)+(12)	88,009,236	その他の積立金積立額(16)	0			
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	169,189,672			